

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 16 日

札幌市立 栄北小学校

1 今年度の重点目標

あこがれとありがとうでつながる学校
～学ぶ力 豊かな心 健やかな体～

2 本年度の経営方針

- 子ども一人一人を大切にする学校
- たくましい心身を鍛える学校
- 研究・研修に努め、ともに高め合う学校
- 自己形成に自ら立ち向かわせる学校
- 明るい笑顔や挨拶が響く学校
- 保護者、地域の信頼にこたえる学校

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	たくましい子 ・かんがえる子 ・思いやりのある子 ・ねばりつよい子		B	三つの育成プログラムを軸に、知、徳、体のバランスを考えた教育活動を進める。	A	B
学校関係者評価委員会による意見		・子どもたちの考えを認め、信じ、見守ってくれる先生方に感謝しています。 ・他者を受け入れ気に掛けるおおらかさや優しい心が育っていると感じています。今後は、他者との対話を促し自分も他者も大切にする力をぜひ育んでほしいと願っています。いじめに関することを耳にしたことがあり、德育に関する+αが必要だと思います。 ・「たくましい」とは何か子どもたちは理解していますか？				
人間尊重の教育	豊かな人間性、社会性の醸成と全職員による児童理解の共通理解を図る		B	定期的に「児童交流集会」を開催し、職員間で子どもの様子子どもへの関わり方を共有する。日々の出来事や指導内容を記録し蓄積していく。	A	A
「学ぶ力」の育成	AARサイクルの視点に立ち、生きて働く知識・技能の習得に向けた授業改善を図る		B	家庭学習や学習用具の準備など家庭へも呼び掛けながら、学習規律の確立を目指す。 子どもが主体的考え、つながることができるように、継続して、AARサイクルの視点に立った授業づくりを進める。	A	A
「豊かな心」の育成	自他を大切に 温かい心の育成		A	他者のよさを見付け桜型のカードに書いて伝える「やさしさくら」の活動を継続して、よさを認め合える文化を発展させる。自己肯定感を高めて子どもの優しい心を広げていく。 校内の危機管理意識を高め、これまで以上に安全な学校にする。	A	A
「健やかな体」の育成	体力向上に向けた指導の充実と健康的な生活習慣の定着		B	委員会活動と連携し、年間を通し継続して縄跳びに取り組む。 よりよい生活習慣の定着を目指して、養護教諭や給食親学校の栄養教諭のもつ専門性を生かした活動を進める。	A	A
いじめ対策	自他のよさを認め合う風土 情報を集約し組織的かつ迅速に対応する		A	校内いじめ防止対策委員会を核として情報と対応方法の共有をしながら、子どもに寄り添い、子どもが抱える問題の解決を図る。	A	A
一貫性・連続性のある教育 (小中一貫した教育)	栄中学校区で設定している4つの カテゴリー部会と本校の教務・ 指導3部を連携させ、中学校区共通の こども像の達成に向けて検証を進める		A	各校の独自性を担保しながら、「学び」、「子ども理解」、「協働」をキーワードにしてパートナー校と連携、情報共有を進める。 近隣の幼稚園、保育園との訪問交流などを通して相互理解を図り、幼保小、また、小中のスムーズな接続を目指す。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		・子どもたちのトラブルや困りごとにはしっかりと話を聞いてくれる先生が多いと聞いています。一人一人に向き合い対応してくれと感じています。 ・「やさしさくら」で他人のよさを認め合うことで、子どもたちの輪が広がり、思いやり助け合ったりする姿をたくさん見ることができました。この活動は素晴らしいと思いますが、随分と前から続いているものです。マンネリ化しないよう何か新しいことにチャレンジしてほしいです。 ・「挨拶運動」もとても良いと思います。人との関わり方の基本はやはり挨拶だと思います。挨拶ができないと他人に興味を湧かす助け合いの心や人の意見を聞くなどの柔軟な心が育たない。たくさんの人と出会えることを喜びにして元気に成長してほしいと思います。 ・学校訪問の際は、子どもたち全員が挨拶をしてくれます。 ・日頃より、子どもたちの情報共有の機会をいただき大変感謝しています。児童会館も放課後の居場所として様々な課題を抱える子どもたち、また、保護者との対話や情報共有を行う機会がございます。今後も同じ地域の子どもの中心に、学校・地域・児童会館双方向で信頼関係を構築し、連携できればと考えております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。				